

平成30年6月13日（水）

発行 宇城市立 小川小学校

笑顔と感謝 あふれる運動会

5月27日（日）心配された天気にも恵まれ、大会テーマ「笑顔かがやけ運動会 思いをつないで全力疾走」のもと小川小学校春季大運動会を開催することができました。5・6年生のたくましい走りや組体操から、



【開会式】



【応援合戦】



3・4年生の鍛え抜かれた表現と団体、1・2年生のかわいらしい走りやダンスまで今までの練習の成果を十二分に発揮した運動会でした。保護者の皆様にも競技に参加いただき、感謝申し上げます。全力を尽くす姿は見ている者に感動を与えます。最後まであきらめない姿に本当に「いい運動会だった」と感じました。



【1・2年玉入れ・ダンス】



【3・4年 花笠音頭】



【4年 技巧走】



【5・6年 ソーラン】



【6年 徒走】

県PTA連合会より表彰

6月2日の県PTA連合会定期総会にて、「小川小学校PTAが会員の熱意と連帯により児童生徒の健全育成と学校教育の振興に献身的に尽力された」として、その功績に対して、熊本県PTA連合会から表彰していただき、前PTA会長の山中基資さんが代表で受賞されました。誠におめでとうございます。



地震津波避難訓練 校長講話

かまいし

「釜石の奇跡」



6月4日に避難訓練を行いました。地震中は机の下など安全な場所に身を隠し、揺れが収まったら運動場に避難しました。その後、津波から身を守るため観音山グラウンドまで避難しました。避難が終わって、私からは日頃の訓練の大切さを子どもたちに、次のように訴えました。ご家庭でも、私の話で会話を広げていただければ幸いです。

今から7年前、平成23年3月11日、東日本大震災の後、テレビや新聞で「釜石の奇跡」という言葉を盛んに言っていました。

「釜石の奇跡」とは、津波があったにもかかわらず、釜石小学校の子どもたち全員、自分の命を守り抜くことができたことを言います。釜石小学校の子どもたちは、学校が終わり下校していました。家にいた子、下校途中の子、魚釣りに行っていた子、公園で遊んでいた子などさまざまでした。

なぜ、全員が自分の命を守り抜くことができたのでしょうか。それは、1年生から6年生まで自分の命は自分で守ることだけを考えて、自分の家に戻ったり、まわりの人の助けを待っていたりせず、素早く避難できたからです。

釜石小の子どもたちは「自分たちの行動は『釜石の奇跡』ではなく、訓練をしたことを行っただけなんです。」と言っています。ですから、今日は、みんながどれくらい真剣に避難訓練をしているかをしっかり見ていました。

先生方から「おはしも」に気をつけるようにいわれたと思います。そうですね。「おさない」「はしらない」「しゃべらない」「もどらない」のことです。校長先生



しっかり見ていましたが、みんな、きちんと守れていたと思います。ただ、ひょっとしたら、休み時間かもしれません。そこで、今日の絶対覚えてもらいたいことを3ついいます。1つ目は「放送を聞く」、2つ目は「集まる場所は運動場」、3つ目は津波の時は「観音山グラウンド」です。私たちも、釜石小の子どもたちのように、たった一つの大切な命を自分で守るために、この避難訓練で学んだことを忘れないようにしましょう。



イモ苗植え 1・2年生 多数の保護者の皆さんと！

体育館の西側の畑を片山善文さんに耕していただき、藤山稔充さんに畝とマルチをしていただきました。6月7日に藤山さんの指導のもと、多数の保護者の皆さんとイモ苗植えができました。小川小の素晴らしいところは、子どもの教育を学校ばかりでなく、たくさんの方々とともにいることだと思います。



